

Q40 専修学校の中には，卒業後，大学への入学資格が得られたり，大学へ編入学できたりする学校もあると聞いたのですが，本当なのでしょうか？

A 本当です。

専修学校の中には，卒業すると大学への入学資格が認められたり，大学へ編入学することのできる学校があります。

専修学校は，多様な分野の職業人（スペシャリスト）を育成する，実践的な職業教育機関です。目まぐるしく変化する社会のニーズに的確に対応する専修学校は，その道のプロを目指す人や更に自分を磨こうという強い意志を持つ人に，質の高い，多様な学習機会を提供していることから，現在，76万人を数える皆さんの学びの場となっています。とりわけ，最近は社会人，大学・短大生も専修学校で学んでいるなど，様々な人が学習しているのも大きな特長の一つとなっています。

専修学校には，入学資格の違いから，高等学校卒業程度の方を対象とした専門課程（「専門学校」），中学校卒業程度の方を対象とした高等課程（「高等専修学校」）及び特に入学資格を定めないで教育を行う一般課程の三つの課程があります。

大学入学資格付与指定校制度

3年制の高等専修学校のうち，文部大臣が一定の要件を満たしていると認めて指定した学科であれば，その卒業生に大学入学資格が与えられ，上級学校への進学に際して大検を受けずにそのまま受験することができます。

平成10年度現在，274校368学科の高等専修学校が大学入学資格の付与を受けており，高等専修学校全体の約4割を占めています。また約1万3,000人の方が大学入学資格を生かして進学しています。

このように，生徒の様々な志望・能力・適性に応じて，実践的な職業・技術教育を行う高等専修学校では，高等学校と並行して，後期中等教育の多様化を推進しています。

大学への編入学

学校教育制度における，いわゆる袋小路を解消するという観点から，平成11年4月より，修業年限2年以上で総授業時数1,700時間以上を満たす専門学校の卒業生が，大学に編入学できるようになりました。

専門学校の卒業生の中には，大学等において更に学習することを希望する方も多く，大学がこうした方に対して編入学の道を開くことは，学習者の要求の多様化にこたえ，専門学校における学習の成果を適切に評価し，学生の選択の幅を広げることにつながることから，大変有意義なことです。

